
幻の語り

知秋一葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻の語り

【Nコード】

N7574B

【作者名】

知秋一葉

【あらすじ】

時間と空間を越えた恋を中心として、善と悪の戦いです。あの恋は、失った恋か？！見つかった恋か？！

夢（前書き）

筆者と友達の経歴によって、フィクションしたものです。

夢

幻の語り

戦いは昔から未来に繰り返されていく〜
そして恩・怨・情・仇の幕もあいたまま〜
この幻の語り。

「夢」

闇！

嵐！

崑崙山

登天崖

光明頂

二人の男がいた。

魔尊と伏魔氏。

魔尊は、力つきながらも微笑んでいる。
まったく観音菩薩みたいだ。

一方、身体が全然動かない伏魔氏は、
烈火のごとく怒っている。

「きさま！汚い奴め！」

魔尊の畏にはめられて、“血魔刀”で斬られたからだ。

「勝てば官軍負ければ賊軍、覚えとけ！！」

「ハハハ！」

もうそろそろ卯の刻になる。

嵐は静まった。
闇の奥から、月が現れてきた。
魔尊は思わず笑ってしまった。
卯の刻になれば、今の肉体は“不死身”になる。
法力も最高の境地にいたる。
欲しいものがあれば、何でも手に入る。
笑いがこみあげてくる。

其の時、

「師父！」

血だらけの風一郎は、一步一步登ってきた。

伏魔氏は、

「一郎、俺はまだ死んでいない！早くやつを殺せ！」
と、叫んだ。

すると、

風一郎は魔尊に逼っていく。

魔尊の声は猫なで声になっている

「風一郎、来たな！小雪もいまに来るぞ！」
伏魔氏との一戦で、大分力を失った。
もう戦えない。

風一郎は、

「小雪！今どこにいるんだ??？」
と、とまった。

「そろそろ来るだろう！」

魔尊は時間を稼ぐ。

「もう少し待ってくれ！」
声も、もつと優しくなった。

卯の刻が寸前に迫った。

伏魔氏は、

「一郎、“奪魂魔音”を聞くな」

「早く奴を殺せ！！卯の刻になったらおしまいだぞ」と、言ったともに一口の血を吐いた。

魔尊はこれを見ながら、

「私を殺したら、小雪は親がない、一人ぼっちになるぞ」と、声も悲しげになった。

風一郎の心を迷わそうとした。

もう時間がない。

伏魔氏は“金剛吼”で唱え始めた。

「摩訶般若波羅蜜！」

「一郎、天下の衆生のため、魔尊を殺してやれ！！！」

「摩訶般若波羅蜜！」

伏魔氏は最後の力を尽くしてしまった。

命を捨てたのだ。

すると、

風一郎は消えてしまった。

NO！NO！

違う！

風一郎は空に高く飛んでいた。
変身したのだ。

「明王一斬」と叫んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7574b/>

幻の語り

2010年10月14日14時43分発行